［課程－２］

審査の結果の要旨

氏名　林 幹雄

本研究は、医療従事者の海外における医療経験が、医療従事者のキャリア形成に与える影響、および海外における医療経験によって生じる学びのプロセスについて、経験学習の観点から考察を行ったものであり、下記の結果を得ている。

１．　20 名の医療従事者（看護師 5 名、歯科医師 5 名、医師 10 名：平均医療経験年数 15.3 年）に対するインタビュー調査を実施した結果、リーダーシップコンピテンシーと関連する 58 のテーマを抽出し、それらのテーマを「リーダーシップコンセプト」、「チームビルディング」、「方針決定」、「コミュニケーション」、「ビジネススキル」、「共同作業」、「セルフディベロップメント」という 7 項目に分類した。

２．　また、上記データ分析により抽出したテーマについて考察を行った結果、看護師は国際医療協力事業への参加後に自身の患者に対する共感対応について振り返ることに対し、歯科医師は自身のビジネススキルを振り返り、医師は自身のリーダーシップコンセプトやチームビルディングを振り返るという職種ごとの特徴が明らかとなった。

３．　10 年以上前に海外で選択実習を経験した東京大学医学部卒業生 23 名（平均年齢 36.4 歳）に対するインタビュー調査を実施した結果、医師のプロフェッショナル・アイデンティティー形成と関連する 36 のテーマを抽出し、それらのテーマを「視点変容」、「キャリアデザイン」、「セルフディベロップメント」、「価値観の多様性」、「他者貢献」、「リーダーシップ」という 6 項目に分類した。

４．　また、上記データ分析により抽出したテーマについて考察を行った結果、医学生の海外での選択実習における経験は医学生の自己相対化を促すことが明らかとなった。さらには、海外での選択実習が将来的な専門性の追求あるいは海外でのキャリア選択にも寄与することが明らかとなった。

以上、本論文は、医療従事者の海外における医療経験が、医療従事者のキャリア形成に与える影響について、質的研究の手法を用いて分析した結果、専門性を有する医療従事者の海外における医療経験が、将来的にリーダーシップ能力の向上に関与することを明らかにした。また、在学中の海外経験は、将来的な医療従事者のモチベーションに影響することも明らかとした。本研究によって得られた知見は、今後医学生の海外における選択実習の長期的な影響、あるいは海外での医療実践を考慮する医療従事者の学習効果を検討する際に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。